

令和6年度 一般会計決算：市の「家計簿」をチェック！



歳出(お金の使い道)のポイント



民生費(福祉・医療)
133.1 億円 (34.7%)
児童、障がい者、高齢支援等の福祉に関する支出



義務的経費
45.8%

人件費や扶助費など、任意に削減できない固定費的な支出



土木費

前年度比**20%**超の大幅増
加賀温泉駅周辺の施設整備事業の増加などが主な要因



民生費(福祉・障がい者・高齢者)

133億1,413万円 34.7%



土木費(道路・公園の整備)

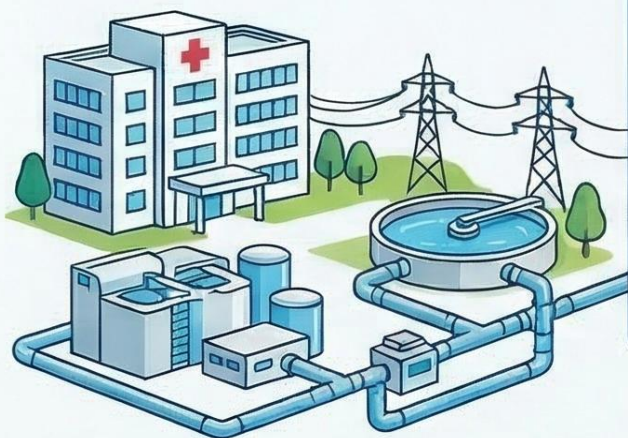
64億9,518万円 16.9%



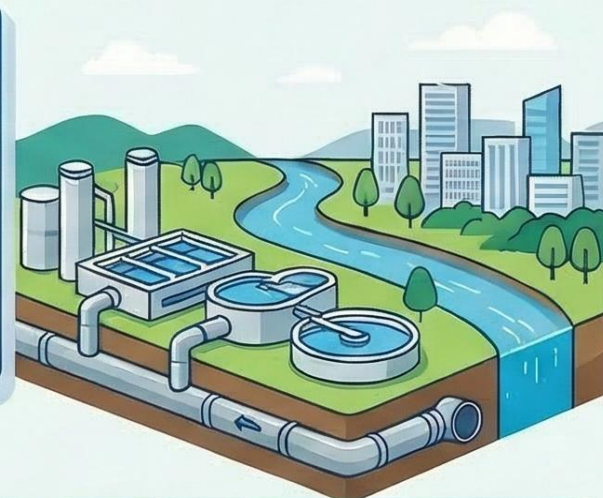
公債費(借金の返済)

38億5,749万円 10.0%

令和6年度 公営企業会計決算の概要：病院・水道・下水道の現状



	病院事業	水道事業	下水道事業
収益(収入)	81億4,769万円	22億182万円	21億9,170万円
費用(支出)	86億2,679万円	22億2,602万円	19億2,455万円
純損益	△4億7,910万円	△2,510万円	2億6,715万円



病院・水道事業：コスト増と施設更新の課題

病院事業：4億7,910万円の純損失

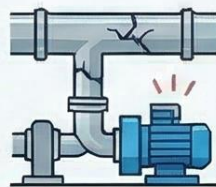
物価高騰や人件費の上昇、新型コロナ関連補助金の終了が大きく影響しました。



診療・料金収入が収益の柱

水道事業：2,510万円の純損失

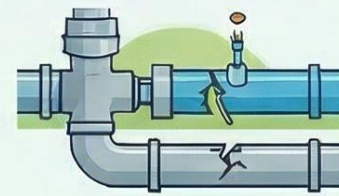
収益は微増したものの、老朽管の更新やポンプ場の電気設備更新工事の費用が上回りました。



下水道事業：収支改善と災害復旧への対応

下水道事業：2億6,715万円の純利益

内部留保資金確保のための会計処理変更により、前年度から収益が大きく改善しました。



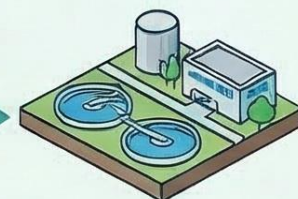
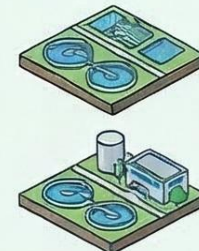
能登半島地震からの災害復旧

被災した管渠や処理場設備の復旧工事を最優先課題として推進しています。



施設の統合整備による効率化

2つの汚水処理場を大聖寺川浄化センターへ統合するプロジェクトを継続中です。



大聖寺川浄化センター

加賀市の財政状況レポート：主要4指標で見る健全性と推移

令和5年度決算（令和6年度数値）に基づく加賀市の主要4財政指標（実質公債費比率、将来負担比率、財政力指数、経常収支比率）の可視化。借入金の返済負担、将来の債務、財政の自立度や柔軟性を示します。



負債と将来の負担 (健全性の維持)

8.2%

実質公債費比率

前年度から0.5ポイント減少し、借入金返済の負担は県内11市の中で中程度の水準です。



早期健全化基準

実質公債費比率25%、将来負担比率350%を超えると「早期健全化団体」に指定されます。

104.1%

将来負担比率

市債残高の減少等により前年度から2.7ポイント改善しましたが、県内では高い部類に入ります。

直近5年間の主要指標推移 (R2-R6)



財政の自立度 (弾力的な財政運営)

0.540

財政力指数 (横ばい)

指数が高いほど自前の財源に余裕があることを示しています。

95.9%

経常収支比率

前年度より0.4ポイント増加。比率が高いほど財政が硬直化しており、新たな施策への余力が少ない状態です。

県内11市の状況 (財政の弾力度)



市の財政レポート：借金（市債）と貯金（基金）の現状

市の負債（市債）と積立金（基金）の推移を対比させ、現在の財政バランスを視覚的に理解する。

市債（借金）の推移と現状

令和6年度末の市債残高は
約392億円

前年度から約5,700万円減少しましたが、依然として高い水準にあります。



「臨時財政対策債」は実質的な国のサポート借金ではあるものの、返済時に国から地方交付税として補填される性質を持ちます。



建設事業の内容により借入額が大きく変動
ゴミ処理施設や学校改修などの大型プロジェクトが借入額を押し上げる要因です。

直近2年間の比較（単位：百万円）

項目	令和5年度末 (R5)	令和6年度末 (R6)
市債残高 (借金)	39,272	39,215
基金残高 (貯金)	4,299	3,303

基金（貯金）の急速な減少

基金残高はピーク時の
約3分の1へ減少

平成28年度の約90億円から、令和6年度には約33億円まで減少しました。



財政計画に基づく
「計画的な取り崩し」

市債の返済や重点事業の推進、まちづくり振興のために資金を活用しています。